

根羽村のねばーぎぶあっぷ
小木曾亮弑 著

根羽村の ねばー ぎぶあっぷ



～根羽村の「ネバーギブアップ宣言」～

村の92%が山林という長野県最南端の根羽村。人口はとうとう1000人を大きく割り込み過疎化が進んでいる。

しかし、国民の志向はモノの豊かさから、心や自然の豊かさへと変化してきており、国も「都市と農山漁村の共生・対流」という施策を打ち出している。長野県下伊那地区は豊かな自然を背景に、日本の良き故郷が残る地域として脚光を浴びつつあり、グリーンツーリズムなどで訪れる都市住民も増加している。

そこで根羽村は過疎化に負けず、村民と行政が共に汗を流すことにより、誇りと希望の持てる「ふるさと根羽村」を築いていくため、平成16年1月、根羽村のネバーギブアップ宣言を出している。→p.118



樹齢1800年、根羽村の大杉

小木曾亮弑 著

三村の木材で香学教室

川上村は2016年開園の保育園に大桑村檜の年小部屋を、根羽村杉の年中部屋を、川上村唐松の年長部屋を作った(香学教室)。→p.115



根羽村



特別対談

「源流の村同士の絆」

藤原中彦 川上村長、
全国町村会長 2011-2017



小木曾亮弑 根羽村長



9784904528068



1920061015005

ISBN 978-4-904328-00-0
C0061 ¥1500E

ソリックブックス

定価：[本体 1500円]+税

源流の村にこそ「ふるさと納税」を

林業で栄え、人口も3000人を超えていた根羽村だが、現在はとうとう1000人を大きく割り込んだ。過疎化が進んでいる典型とも言える。

根羽村は村内地域の92%が山林で、その72%が人工林。かつては村民全戸に植林の山を持たせ、林業を主体とした豊かな村であった。しかし、木材輸入自由化の波に飲まれ、村民や村の財政は急速に落ち込んだ。

そんな村営の難しい中、筆者は水資源の重要性を訴え、林業から木材加工などを含めた産業への転換を図り、また村と都市部を結ぶ交流拠点としてのネバーランド(第三セクター)を設立するなど、様々な創意工夫を凝らしてきた。

これまでの安城市様、アイシングループ企業様のご協力で深く感謝したい。

また、都市部の皆さんに憩いの場を提供することで、源流の村にこそ「ふるさと納税」をと訴えたい。多くの人たちが心の村民になって欲しい。



共著プロフィール

小木曾 亮弉(おぎそりょういち)

1939年(昭和14年)長野県根羽村生まれ。58年長野県飯田高松高校卒、同年株式会社片桐工務所入社、91年同社専務取締役から根羽村長に当選。以降11年まで村長を5期20年務める。その間に長野県水源林造林協議会会長、長野県河川協会会長、全国山村振興連盟副会長など。

根羽村長として内外に水源の大事さを訴えたり、林業を加工・販売も手掛ける複合産業に生まれ変える構造変革に取り組んだり、都市部との交流拠点としての株式会社ネバーランドを設立したり、根羽村の発展に大きな功績を残した。

08年全国町村会会長表彰、11年総務大臣表彰、12年秋叙勲で旭日小綬章。

根羽杉、川上唐松、大桑檜で アロマテラピーに取り組む。

「アロマの香りは五感を刺激する森からの贈り物」。そう語るのは東京・渋谷でアロマテラピー関連事業を営む市井真太郎さん(写真右)。すでに三村の木材からのアロマオイル開発に成功している。→p.116



根羽村の杉からもアロマオイルを抽出する、市井さんの長野アロマプロジェクト。写真は左から木目も美しい根羽杉、おが粉からの蒸留実験中、抽出されたアロマオイル。



士の絆」



小木曾亮弉
根羽村長(前)



まえがき・・ 3

根羽村は間違いなく一流の村だ。

長野県下伊那地方事務所 二事務所長 田山重晴

11

小木曾さんがいたからこそ、根羽村は元気になれた。

根羽村長 大久保憲一

15

第二章 根羽村のネバーギブアップ

根羽村に民間の手腕が必要だった。

18

根羽の美林を守り続ける。

21

昔の村民は豊かな森林業を味わった。

23

民間人が村長になる必然性が生じた。

25

Uターン、Iターンを大歓迎。

29

県産木材活用 of トライアングル構想。

31

水資源が育む下流域との交流。

34

地の利を活かして活性化したい。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

豊かな森林と美味しい水で村興し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

第二章 トータル林業の構築

林業を極めることで拓く根羽村。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

村内全戸に五・五ヘクタールの森林を持たせる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

森林は親が植え、子が育て、孫が伐る。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

廃業に追い込まれた最後の製材工場を村が買い取る。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

新しい林業経営のサイクルの確立。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

「伊那谷の森で家をつくる会」の発足。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54

地域の山の木で家をつくり、お金を山に返す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

木材の一次産業、二次産業、三次産業を結ぶ。

「根羽杉の柱五〇本をプレゼントします」……………

61 60

第三章 森の水を守る

矢作川源流の豊かな森を守る。

66

安城市と「水源の森」契約を結ぶ。

67

「官行造林」という国の助けで潤う。

69

木材の輸入自由化で環境は一変する。

71

飯田営林署の見積もりは一億五〇〇〇万円。

73

「水をつかうもの、自ら水をつくるべし」……………

75

安城市長あてに協力依頼を提出。

78

安城市長からの賛同に詰めを急ぐ。

79

個人を対象にした「ふるさとの森」分収育林事業。

81

アイシンググループの先進的な協力に感謝。

83

林業の「業」としての復活が水源を守る。

85

特別対談

● 小木曾 亮 氏 根羽村長 (前) × 藤原 忠彦 氏 川上村長

源流の村同士の絆

森の力で日本に、地球に貢献する。

88

二〇年間、両者とも村の信頼が厚かった。

91

お互いに源流の村出身、すぐに同志に……………

92

条件不条理の村は、情報収集と人的ネットワークが大事。

95

都市との交流をいかに進めるか。

97

定住人口数よりも交流人口数が大事。

99

トラックの助手席に藤原村長、川上から義援キャベツ届く……………

101

林業で三村トライアングルの良い協力体制ができた。

04

山、森林は手を入れねば守れない。
木造住宅の良さを知っていたきたい。
長野県内の全町村で「農業祭」を始めた。
消防団員が集まらない町村ではだめ。

後日談／川上村保育園に三村の木材……………	115
長野県の杉、唐松、檜でアロマテラピーに取り組む。	116
根羽村「ネバーギブアップ宣言」……………	118
付録……………	12

著者プロフィール

小木曾 亮式（おぎそりょういち）
1939年（昭和14年）長野県根羽村生まれ。58年長野県飯田高松高校卒、同年株式会社片桐工務所入社、91年同社専務取締役から根羽村長に当選。以降11年まで村長を5期20年務める。その間に長野県水源林造林協議会会長、長野県河川協会会長、全国山村振興連盟副会長など。
根羽村長として内外に水源の大事さを訴えたり、林業を加工・販売も手掛ける複合産業に生まれ変える構造変革に取り組んだり、都市部との交流拠点としての株式会社ネバーランドを設立したり、根羽村の発展に大きな功績を残した。
08年全国町村会長表彰、11年総務大臣表彰、12年秋叙勲で旭日小綬章。

根羽村のねばーぎぶあっぷ

発行日 2017年9月1日 第1版第1刷

著者 小木曾亮式
構成 荒井 久
装幀・制作 吉田和子

発行人 荒井 久
発行所 株式会社ソリック
〒113-0022
東京都文京区千駄木2-48-4-1101
電話 03-5842-1134 fax 03-5842-1135
<http://www.soriq.jp>
e-mail : arai@soriq.jp

印刷所 株式会社シナノ

©Ryoichi Ogiso 2017 Printed in Japan
本書内容の一部あるいはすべてを無断で複写・複製・転載することを禁じます。
落丁本は送料当方負担で無料お取り替えいたします。

ISBN978-4-904528-06-8 C0061

長野県の杉、唐松、檜でアロマセラピーに取り組む。

藤原川上村長との対談でも触れたが、私達は川上村の唐松、大桑村の檜、そして根羽村の杉を建築物の材料としての利用を考えてお互いに切磋琢磨してきた。ところが最近、この3つの木材をアロマセラピーとして利用しようという動きが出てきたので、ここでも触れておきたい。

アロマセラピーとはアロマ（芳香）とセラピー（療法）を合わせた造語で芳香療法のこと。植物が持つ有効成分を凝縮した精油の香りであり、人生を豊かにしたり、心身の不調を癒す効果が期待できる。その開発、商品化に取り組んでいるのが東京・渋谷でアロマセラピー関連事業を営む市井真太郎さん。

「アロマの香りは五感を刺激する森からの贈り物」という市井さん。根羽村森林組合にもお出でくださり、根羽杉からのアロマオイル抽出に成功した。同

様に檜からのアロマ抽出にも成功、最も難しかったのが川上唐松だったそうである。これはアロマオイルではなく、アロマウオーターを抽出することで成功させた。その模様は東京の日本テレビ系列で放映されている。<http://www.news24.jp/articles/2016/06/06/07331983.html>

建築物としての利用もさることながら、こうした三村からの森の贈り物が都会の皆さんの生活を豊かにすることは、私達にとっても願ってやまないこと。これからの進展を大いに期待したいと思う。

根羽村森林組合の今村参事(左)と市井さん(右)

